

「光陰は矢の如し」。私は、日本に来てまもなく三年になります。この三年間に私はたくさんの方のことを経験しました。一つ一つは、立派なものではないですが、私にとって一生忘れられない、永遠の思い出となりました。

私は、高校卒業後、すぐに日本への留学を選択しました。中国国内の大学へ進学したクラスメートたちと比べると、友達や友人とワイワイと話をする時間が少なく、両親に甘えることもできません。しかし、「留学は旅行ではない、生活を楽しみに来ているわけではない」と自分に言い聞かせ、頑張っている間に、自分に自信を持つことができるようになりました。本当にいろいろなことを日本で勉強することができました。

日本へ来たばかりの時は、日本語がうまく話せないため、アルバイト先がなかなか見つかりませんでした。半年過ぎてからようやく一軒の料理店に雇ってもらいました。店に唯一人の外国人として、みんなから優しく接してもらいました。店の人たちは中国のことに興味があり、最初はあれこれ聞かれました。しかし、日本語が下手だった私は、質問の意味がよく理解できなかつたり、日本語でどのように説明すればいいのか分かりませんでした。それが恥ずかしくて、その場から逃げ出すことがたびたびありました。しばらくすると、周りの人たちはだんだん私としゃべらなくなりました。それに気づいた私は、すごく落ち込みました。他の人は、楽しそうにおしゃべりをしながら仕事をしていましたが、私だけ中に入ることができず、とてもショックでした。このようなつらい経験をして、もっと日本語を勉強しようと決心しました。

私は中国のバラエティ番組やアメリカのドラマは好きですが、日本のドラマは苦手でした。すらすらと日本語をしゃべれるようにと、私は一生懸命に頑張りました。幸い、多くの日本の番組やドラマには字幕がついています。聞いたこともない単語や分からない言葉を見たら、すぐメモを取り、辞書で調べました。どうしても覚えられない単語があると付箋に書いて自分が見えるところに貼りつけました。歯を磨く時、寝る前に何度も何度も復唱し、覚えるまで復習しました。

また、日本語が上手な友達に日本語の勉強方法を聞きました。友達からは「日本語が上達できる方法は、自ら積極的に日本人の方と話すこと。日本にいる私たちは外国人だから恥ずかしいことではない。間違っても笑われないよ。」と助言をもらいました。それ以来、私は積極的に周りの日本人に声を掛けるようになりました。少しずつ、私の日本語は以前より上手になっていることに気づきました。しかも、話す時に以前のような緊張感もなくなりました。真面目に勉強しようとしている私の姿勢を見た日本人の友達は、いろんなことをさらにやさしく説明してくれるようになりました。今、その料理屋からは離れましたが、そのとき身につけた勇気と自信は一生に役立つと思います。

日本語がうまく話せるようになって、私もだんだんと明るくなりました。外国で生活するとき、まわりのものは変えられませんが自分を変えられます。このことに気づくことができたことは、自分が成長した証だと思います。

時間はまたたく間に過ぎていきます。卒業の時に、自分が満足できる成績を残すために、これからも頑張りたいと思います。この日本での経験は私の一生の宝物です。